琉球新報 (2003/7/20) 第3種郵便物認可

海外ウチナー通信員

ハワイ

沖縄の長寿学ぶ

―テイストオブオキナワ―

食や健康に関心の高さ

ハワイ沖縄会館で開かれたテイストオブオキナワ

WUBハワイ（坂本・ウェスリー会長）主催の第七回テイストオブオキナワが六月二十二日、ハワイ沖縄会館で開催された。今回のこのイベントの目的は、八月に開催される第一回世界のウチナーンチュ会議に向けての資金集め。「健康維持と長寿」というテーマで、特別講演を設けた。

「The Okinawa Program」という沖縄の長寿の秘けつと応用を紹介した本の著者である、医療人類学博士、クレイグ・ウィルコックス（カナダ出身沖縄在住）、双子の兄弟、ブラッドリー・ウィルコックス博士（カナダ出身ホノルル在住）が沖縄の長寿について講演した。

米国で高いテレビ視聴率を誇るトークショー「オプラ フィンフリーショー」出演で沖縄の長寿を紹介した時の映像や沖縄長寿食の食材などスライドで分かりやすく紹介した。

またハワイの食材をたくさん食べて健康にやせるという「ドクターシンタニハワイダイエット」の著者・新谷テリー博士も講演した。会場には、三百人以上の人たちが訪れ、熱心に講演に聞き入った。

WUB国際理事会が、前日にホノルルで行われたことから、関西、東京、沖縄、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアなど、WUB各支部の代表もこのイベントに参加した。

会場では、健康に関する本、器具、食品、サプリメントの展示即売も行われ、沖縄食、健康ブームへの関心がうかがわれた。

講演のあと、参加者は、沖縄の長寿食、ゴーヤーチャンプルーや紅芋、ラフテー、クーブイリチーを賞味した。また、沖縄県酒造組合連合会から寄付された各種の泡盛も地元の人々の人気を呼んだ。

（名護千賀子・ハワイ通信員）

第1回世界のウチナーンチュ会議

〝ひげ〟で成功祈願

運営委、連帯感強める

ハワイで開かれる第1回世界のウチナーンチュ会議の成功を祈りひげをのばしている運営委員会のメンバー

八月二十九日からハワイで開催される「第一回世界のウチナーンチュ会議」（ハワイ沖縄連合会、WUBハワイ沖縄主催）に向けて準備が行われているなか、運営委員会のメンバーらは、イベント成功を祈願してひげをのばしている。六月二十一日付のハワイ地元紙、ホノルルアドバタイザーにも、イベントの紹介とメンバーのひげの顔が登場した。

このひげの由来は、十四年前のハワイ沖縄センター設立前にさかのぼる。センター設立のため、資金集めを中心にきかけたリーダーたちが、センター設立実現をめざし、ひげをのばしたことだ。

「アジア人の中でウチナーンチュの体の特徴は、毛深いこと。それを生かしてひげをのばし目的達成までそらない、がんばる意欲、連帯感を感せる」と、十四年前の三月三十一日付地元紙ホノルルアドバタイザーに掲った久場エドワード氏。久場氏は、弁護士事所を持つ傍ら沖縄系社に貢献してきた一人で、現在運営委員会で活動だ。

この記事は、ハワイ沖縄系社会だけでなくワイ社会でも反響をび、センター資金集めも大きく影響した。

（名護千賀子・ハワイ通信員）